

木造薬師如来坐像(正祐寺) 1 軀

木造薬師如来坐像

もくぞうやくしによらいざぞう

分野／部門

有形文化財／美術工芸品〔彫刻〕

所有者

宗教法人 正祐寺(しょうゆうじ)

所在地

大阪市天王寺区上本町 7

紹介

法量:像高 35.0cm



生玉神宮寺の新蔵院と観音院の後身である正祐寺に伝来する。

脇侍を伴わない単身像で、彫眼である。肉身部、衣部はともに漆箔で覆われる。熟練した彫技によるもので、目尻の上上がった意志的な相貌、動きのある巧みな衣文の表現、大きく張り出した膝前部分は、鎌倉彫刻の特徴を示す。

構造は、頭部は一木造、体部は一木割矧造と、頭体で異なるが、一具と思われる。なで肩の体軀は体奥も深く、像高 35cm という小像ながら、堂々とした造形である。

制作年代は鎌倉時代、13 世紀後半に遡ると考えられる。